

連載

めざせ Stand-Alone



先日参加した技術者育成についての講演会で注目した一つのキーワードが「俯瞰よかん」でした。俯瞰は「全体を上から広く眺めよう」という主旨の言葉です。製品と業務が複雑化して分業が進み、活動範囲も世界へと広がっていく中、今の立ち位置を確認し、進むべき道を示唆してくれる「俯瞰」が今回のテーマです。

技術者の役割とスキルを確認しよう

● with コロナで顕在化した若手の不安
 新型コロナウイルスは都市集中によるリスクや行政のデジタル化遅れなど、さまざまな課題を浮き彫りにしました。企業での技術者の活動も、できるだけ出社を控えながら仕事を進めることが求められました。

昨年11月20日の日本経済新聞の記事「若手ほどテレワークでストレス増 役割理解に不安か」では、役割と責任の範囲を明確化していない日本企業の仕事の進め方が、テレワークで働く若手社員に不安を与えていると報じていました。

JOB Descriptionという言葉があります。職務記述書です。このJOB Descriptionによって役割と責任を明記する欧米と異なり、日本企業では個々に求める役割と責任を定義、限定することはせずに、チーム構成、業務の進捗、個々の力量と経験などによって最適と思われる役割と責任をフレキシブルに定め、伝えていくスタイルがとられています。

人材採用や雇用制度にも端を発する日本型チーム運営は、直接対話の機会が制限されるコロナの時代において、若手社員の役割理解を難しくしているのです。分業体制の中で働く若い技術者にとっても、今後どのような能力と経験を身に付けていくべきなのか、またそのための業務経験、教育・研修と自己啓発・研鑽の方向性も見えづらくなっています。

● JOB Description

欧米の組織では、目標を実現するために必要な力量

を明らかにしてチームを作り目標達成を目指します。メンバに求められる力量と役割はJOB Descriptionに明示され、その要件を満たす、あるいはそれに近い人材でチームを構成します。欧米と日本での仕事の進め方は異なっても、技術者の役割と責任、そのための要件に大きな違いはありません。JOB Descriptionの内容は日本の技術者にとっても現在と将来の役割、育成の方向性を確認するうえで大いに参考になるものです。私の活動領域である電源設計技術者を例に、JOB Descriptionを見てみましょう。

表1は欧米、台湾企業がPower Supply Engineerに求める要件を整理したものです。記述されたスキルと経験を身に付け、自立したプロの電源設計技術者として、よりやりがいのある仕事、報酬の高い仕事をめざしていくのが欧米のスタイルです。

ここに明示されていることこそが、日本の若手技術者が身に付けてほしいスキル、期待されている役割なのです。あなたがもし電源技術あるいはパワー・エレクトロニクスのエンジニアでしたら、今現在の役割、力量と比較してみてください。今後伸ばすべきスキルと進むべき方向性が見えてくるのではないのでしょうか。

電源技術以外の領域については、「JOB Description [Machinery, Medical, Communication, Audio & Video など分野を記述} engineer」で欧米などの求人を検索してみてください。求められる役割と責任、自身の方向性のヒントが見つかるはずです。また、Senior Engineerとして検索するとさらにその先で求められる要件を知ることができます。

● 日本型チーム運営と育成スタイル

欧米型の開発チームづくりが、要件を満たす個々のプロを必要時に集める、または採用するのに対して、日本型はJOB Descriptionを明示せずに一括採用されたメンバを組み入れて育成する形をとります。新入社員は各部署やチーム・メンバ配置の現状、適性と力量を見て決められ、期待する役割、力量を持った技術者として育成していくのです。